

令和7年第4回岐阜県議会定例会 (10月2日一般質問に登壇)



BREAK THROUGH

「今を越え、未来を拓く！」

質問：「アグリパーク構想」の全県展開について

知事答弁

岐阜の農業の未来をみんなで創る！「アグリパーク構想」始動！

農業従事者の減少が見込まれる中、皆さまへ安全・安心で美味しい食を将来にわたって安定的にお届けするため、岐阜県の農業は新しいステージへと向かいます。

これまでの専業農家を中心となって地域農業を担う構造から、会社員や主婦の方、学生さんなど、誰もが兼業や副業といった多様な形で農業に関わることができる「ハイブリッド型」の農業への転換を目指します。その実現に向けた第一歩が「アグリパーク構想」です。

これは、農業に興味をお持ちの方が、気軽に農業を体験し、楽しみながらノウハウを学べる「スタートアップの場」を設ける構想です。

アグリパークの構想は、県が特定の地域に決まった形で設置するものではなく、地域の実情や挑戦したい方々のニーズに合わせて、意欲のある民間事業者や団体の皆さまが主体となって運営する、新しい仕組みです。

知事からは、アグリパーク構想の現時点での重点推進モデルとして、下記の3つの要素が示されました。

- 1 つ目 都市部からの移住者が、有機農業を行いながら他の職業にも従事できるといった、いわゆる「半農半X」農業をやりながら他の仕事もするというものなど「**中山間地域に適した農業参入モデル**」。
- 2 つ目 地域の消費者が食べたいものをつくり、提供する「**直売所を中心とした地域活性化モデル**」。
- 3 つ目 これまで当たり前だった農業の形態を見直し、仕事の切り出しなどによって、副業希望者の多様なニーズに応える「**農業版働いてもらい方改革モデル**」。

さらに知事は、「こうした重点推進モデルとなる取組を、農業が本格化する来年度から開始できるように、年度内に公募の形式で企画の募集を行う。」と答弁されました。

岐阜県立高校で使用するタブレット端末の生徒負担について

岐阜県立高校・特別支援学校高等部の生徒が学校で使用するタブレット端末を、県教育委員会が来年度から貸与せず**個人負担を求めるとする方針**が打ち出され、この方針についても今議会一般質問が行われました。

堀教育長からは、「今後、新たに購入される場合には、**通常より安価に購入**いただけるよう、必要な仕様を満たした機種を一括して業者と協定するなど、スケールメリットを生かした購入方法も検討していく。」との答弁がありました。

令和7年第4回岐阜県議会定例会では、岐阜圏域のまちづくりの一環として、**LRTを含む新しい交通システムの導入の可能性に関する調査予算30百万円**をはじめ、**総額約192億円**の一般会計補正予算等が可決されました。

なぜ今？ 新しい交通システムが必要？

江崎知事からは・・・

県都である**岐阜市の中心市街地**は、百貨店の相次ぐ閉店や**30年間続く地価の下落**などにより、かつての「商いのまち」としての賑わいが失われつつある。柳ヶ瀬地区の通行量は、昭和50年代後半に比べ**85%も減少**しているのが現状。この状況を打開し、岐阜圏域全体を元気にするため、県は「**未来のまちづくり検討プロジェクトチーム**」を立ち上げ、新たなまちづくり計画を進めている。その中心となるのが、**お子さまからお年寄りまで、誰もが快適に移動できるサービスの実現**。

その有力な選択肢として検討しているのが「**次世代型路面電車(LRT)**」の導入。

海外の都市では、LRTの導入によって中心市街地が活性化し、シャッター通りが解消されるといった成功例も報告されており、県では、こうした先進事例を参考に、導入エリアやルートなどを慎重に調査・検討している。

今後は、地域の皆さまや関係者のご意見を丁寧にお伺いしながら、今年度末を目標に、関係機関と検討体制を整え、事業計画や採算性などの議論をすすめると共に、今後の計画の進捗具合についても、積極的に情報公開し皆さまと一緒に、誰もが輝ける魅力的なまちづくりを進めていきたい。と答弁されました。

※**次世代型路面電車(LRT)とは Light Rail Transit** ライト・レール・トランジット
LRTとは、各種交通との連携や低床式車輛(LRV)の導入により停留所での乗降がしやすくなるとともに、定時性、安全性にも優れた特徴を有する次世代交通システム。



従来の路面電車 (広島電鉄)



LRV グリーンムバーマックス (広島電鉄)

※提供 (広島電鉄 (株))



「LRT」を有力な候補として検討をスタート
「人やモノが集まる岐阜県」の実現

※写真イラストは全てイメージ